

第 39 回日本呼吸療法医学会 第 1 回理事会議事録 (2016 年度第 1 回理事会)

日 時：2016 年 10 月 13 日（木）13：30～16：30

場 所：東京八重洲ホール 9 階 902 会議室

出席者：川前金幸（理事長）、藤野裕士（副理事長）、今中秀光、大塚将秀、志馬伸朗、
蝶名林直彦、布宮 伸、竹田晋浩、神津 玲、森松 静（各理事）、橋本 悟（監事）

欠席者：小谷 透、西田 修、山本信章（各理事）、落合亮一（監事） [敬称略]

陪 席：山崎由華、小笠原聡（事務局）

【開 会】（川前理事長）

- ・理事会開催に必要な理事の過半数の出席があることが報告され、開会が宣言された。
- ・役員選挙後の初の理事会であるため、全員の自己紹介を行った。
- ・山本信章理事が体調不良で現在入院中だが、快方に向かわれていることが報告された。

【報告事項】

1. 前回理事会・2016 年度定時社員総会の議事録（案）の確認・承認（川前理事長）
 - ・前回議事録ならびに総会議事録は、原案通り承認された。
2. 事務局からの報告（大塚理事）
 - ・会員動向は今後も 5 月と 10 月に調査を行う。
 - ・2016 年度賛助会員は、前年度から 1 社（パシフィックメディコ）減って 11 社となった。
 - ・本年度分の会費納入状況は 10 月 1 日時点で約 65%であった。年度末に未納者への請求を再度行って納入率向上を図る。
 - ・連結決算への移行にあたり、従来新年度開始後の 4 月に行っている会費請求を前倒しして適切な時期に変更する必要がある。また、会費未納者に対する機関誌頒布などの対応や、会費未納による自然退会の猶予年数についても今後検討を行う。
3. 第 38 回日本呼吸療法医学会学術集会報告（川前理事長）
 - ・アンケート結果より、会員/ 非会員別あるいは職種別料金設定などについては審議事項で検討する。
 - ・本アンケートは医師が大半を占める代議員によるものだが、コメディカルに参加費が高額との指摘があった。先日開催されたケア・リハ学会の参加費は 10,000 円（学生 5,000 円）であったと大会長の蝶名林理事より報告があった。
 - ・前回に引き続き主要な講演の映像収録を行ったので、参加できなかったセッションの視聴希望のニーズに応えるとともに、会員サービスに寄与するものとなった。

4. 第 39 回日本呼吸療法医学会学術集会準備状況（布宮会長）

- ・プログラム作成ワーキンググループ委員を選定した。全職種をカバーし、それぞれの担当領域から広く企画を募るよう依頼した。
- ・緊急入院された山本信章先生がプログラム委員を継続することは難しいと判断し、臨床工学技士を 1 名追加指名することとした。

5. 第 40 回日本呼吸療法医学会学術集会準備状況（竹田副会長）

- ・2018 年 8 月 3 日（金）～4 日（土）、東京ドームホテルを予約して準備中。社員総会は前日の 8 月 2 日（木）に同ホテルで行う。
- ・会場側からは収容人数に問題ないと聞いているが、若干、会場が狭くなることが懸念される。状況によっては隣接する展示場も利用することを検討する。
- ・例年は海の日（祝日）の時期に学術集会が開かれるが、理学療法士が多数参加する心臓リハビリテーション学会学術集会と重なることが多かった。第 40 回・41 回は 8 月初旬となったため PT が参加しやすくなった。PT への周知を積極的に行っていく。

6. 各委員会報告

1) 『人工呼吸』新規記事、広告営業について（藤野理事）

- ・第 33 巻第 2 号（2016 年 11 月発行）から、掲載した投稿論文に対する評価・解説記事「エディトリアル Editorial—本号のトピックス—」を掲載する。
- ・ユーザーレポート・広告の掲載はここ 2 年で減少傾向となっている。当初は東と西の委員が交互に掲載企業を積極的に募る方針であったが、現状は依頼窓口にとどまっている。今後は企業への働きかけを積極的に行うことを考慮する。
- ・今回、西田前会長提供の学術集会協賛企業に広告掲載依頼を行ったところ、4 社からの申し込みがあった。
- ・賛助会員の在り方などについては審議事項で検討を行う。

2) 第 4 回医師向けセミナー開催報告（大塚理事）

- ・参加者の年齢層は、若手医師が多い印象であった。
- ・2017 年度からは合計 4 回の実施を予定しているが、会場確保が難しい。またコメディカル向けと合わせて年 6 回の開催となるため、参加募集期間が重なって参加費徴収などに支障をきたす恐れがある。今後、慎重に検討・調整を行っていく。
- ・2017 年度からは、ベーシックコース用の講演 PPT の素案を予め用意し、それに基づいて名誉会員に講義をしていただく。PPT の追加修正は可とする。他学会の例では、用意した PPT への追加修正を認めず、収載された内容以外のコメントについては個人的見解と断って述べるように徹底している場合もある。しかし、今回はベーシックコースであり、内容が大きく逸脱することは考えにくい。内容は講師である名誉会員に委ねる方向で検討している。

- ・アドバンストコースは現役の委員などが講義を担当することを予定している。
- ・呼吸リハビリテーションを内容に追加するよう提案があり、担当の山口委員と検討することとなった。

3) 2016 年度呼吸療法専門医＜更新・新規＞審査結果（藤野理事）

- ・学術集会の参加証の提出がない申請者について審議したが、例外を認めず審査基準の通り参加証の提出がない場合は更新・新規いずれも認定しないこととした。
- ・学術集会への参加などを IC カードで管理することが再検討された。IC カードは、e 医学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会がそれぞれ独自のシステムを利用しているが、コスト等から e 医学会に加入することが現実的である。今後、e 医学会が新規募集を再開次第加入を検討していく。

4) 社会保険委員会審議報告（蝶名林委員長）

- ・在宅医療については、診療報酬が認められていないものが多い。
- ・ハイフローセラピーは、医学的なメリットは認められるものの診療報酬額が不十分のため、実施するほど赤字が嵩んで医療機関の負担が大きくなるのが問題である。
- ・外保連への加盟も今後の検討課題となる。外保連 40 万円、内保連 20 万円と加盟料が異なるが、外保連のほうが影響力は大きい。これらも踏まえて検討を行っていく。

7. その他

1) 持ち回り理事会（審議 2 件、連絡 11 件）決定事項の承認（川前理事長）

- ・橋本監事が務めていた財務委員会委員については、後任を志馬理事とする。
- ・担当理事が決まっていなかった自発呼吸アセスメント指針作成 WG については、今中理事を担当理事とする。

2) 次回理事会は 2017 年 2 月 16 日（木）を予定する。

【審議事項】

1. 賛助会員について

- ・対象となる企業を拡大する方向であるが、他学会の例をみても製薬メーカーの加入は難しいことが想定される。
- ・以前の理事会では、広告内容が学会の推奨治療法と誤認されないために製薬会社の入会について慎重にすべきという意見があった。しかし、状況も変化しているため呼吸療法に関連する企業に対しては業種を問わず積極的に入会を勧めることが確認された。
- ・元来、賛助会員は『人工呼吸』にユーザーレポートを掲載できるというのが特典だった。
- ・賛助会員の他のメリットとして、学術集会時の企業展示場所の優先決定権も考えられる。これらを明記したうえで、賛助会員募集のための趣意書案の作成を藤野理事

に依頼する。

- ・賛助会員を増やす担当委員会の設置についても、今後の検討課題とする。

2. 年会費の増額について（川前理事長）

1) 正会員

- ・正会員の年会費を、現行の 8,000 円から医師は 10,000 円に上げる。
- ・会員のメリットを明文化する。

2) 賛助会員

- ・メリットを明示して、現行の 5 万円から 10 万円に上げる方向で検討を行う。
- ・元々は支店長決済の上限である 5 万円に設定されたが、現在はすべて本社決済に移行しているため 5 万円に固執する必要はない。
- ・賛助会員のメリットには、学術集会展示ブース場所優先的決定権、ユーザーレポート掲載権などが挙げられる（上記）。

3) 准会員制度の新設

- ・定款には准会員という設定はない。新設するためには定款の変更手続きが必要となるため、今回は見送ることとする。

3. 学術集会参加費の件（川前理事長）

- ・会員と非会員で別料金設定を検討しているが、会員を判別する実現可能な方法がない。受付で会員/ 非会員の名簿チェックを行っている学会もある。
- ・連結決算に移行した場合、会員の参加費は非課税、非会員は課税となるので、その点においても別料金設定としたほうがよい。
- ・参加費は同額であっても、受付で会員・非会員の自己申告をさせて入場者数を厳密に把握し、その数字で決算申請するという方法もある。引き続き検討を行う。

4. 小児在宅人工呼吸マニュアル（仮）について（今中理事）

- ・学会 HP での掲載とあわせて出版することについての異議はないので、適切な方法・適切な価格で出版できるようにサポートしていく。
- ・販売については、予約受付の方法、在庫の保管、販売・発送の方法を明確にする必要がある。これらを再度委員会に確認したうえで事業を進めるかどうか判断する。今回は「自費出版」の形で製作・販売することになる。
- ・販売増につながるように、帯の文言なども工夫することを提案する。例「成人にも有用」など。
- ・パブリックコメントは、代議員だけを対象とすることで了承された。

5. 副理事長選出に係る施行細則追加案について（大塚理事）

- ・副理事長の選出・任期等の規定について、現在の定款・定款施行細則では不十分なところがある。

- ・継続審議とし、今後の持ち回り理事会で審議を行う。

6. NPPV 用のインターフェースであるヘルメット R について（志馬理事）

- ・ヘルメット R の使用に際して不具合を生じることがあり、警告文を学会から発信していた。その後の調査で不具合の生じる状況の詳細が明らかとなったので、警告から勧告へと重要度を下げるとともに再周知する必要性が生じた。HP の更新と『人工呼吸』に掲載することが承認された。

7. HP への意見箱設置について（川前理事長）

- ・学会の運営等について広く意見を募集する仕組みを検討中である。このネーミングを『建設的意見箱』とし、HP への掲載を承認した。届いた意見については事務局が取りまとめ、必要に応じて理事会で審議を行っていく。